

想いを“掛け算”して、 ビジネスのフィールドで挑戦し続ける ～看護師ならではの視点で開業・運営を支援～



株式会社みんなの健康
代表取締役
志賀 大

「株式会社みんなの健康」について

医療機関の開業・運営支援を中心にヘルスケアサービスの開発支援なども行っています。具体的には、2015年から応急専門診療所「いおうじ応急クリニック」の事務長として働きながら、その他複数の医療機関でも事務長やアドバイザーを務めています。

大学卒業後すぐに企業に就職した理由

もともと「看護師の知識や技術は、医療機関以外でも活かせるのではないか」という考えがあり、在学中から「看護学生による看護師の可能性を考える会」を立ち上げ、病院以外で活躍する人を取材していました。取材を通じて、まだ創業間もなかったワンコイン健診事業を提供するケアプロ株

式会社と出会ったのがきっかけです。

臨床実習を通して予防医療の重要性を認識していたタイミングでもあり、「病院に来る前の人たちにアプローチするためには看護師も外で活躍する必要があるはず」と思い、予防医療の事業を展開していたケアプロに就職しました。

独立・起業までの経緯

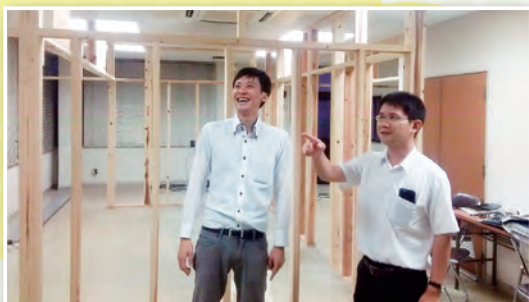
ケアプロとは別に自分自身で活動を始めたのは2011年の東日本大震災でのボランティア活動でした。助成金や補助金などを使用しながら避難所に暮らす方と地元医療機関をつなぐ保健室などを震災直後から約3ヶ月間運営しました。その後も被災地に限らずさまざまな活動をする中で本格的に独立するきっかけになったのが、現「いおうじ応急クリニック」の院長 良雪雅^{まさし}氏と活動していた三重県松阪市の救急医療を立て直すプロジェクトです。

当時松阪市は、医師の高齢化などにより、休日・夜間に対応可能な一次救急を担う医療機関がなく、休日・夜間は軽症な患者さんであっても救急車を利用せざるを得ない状況でした。そのため二次救急病院にはとても負担がかかっており、実際に医師・看護師がハードワークゆえに病院を辞めているという話も聞こえてきている状況でした。そこで松阪市と協議を重ね、地元医療機関が診療を行わない夜間や休日に診療する診療所を設立しようと始まったのが「いおうじ応急クリニック」です。

個人のクリニックが行政から委託を受けて救急医療体制を守るというのは国内初の取り組みでした。実際にオープンしてみると、多数の方が来院されましたが、重症な患者のみを二次救急に送るトリアージ的な機能を地域で果たすことができたので、二次救急病院の医療者からも感謝していた



震災後の石巻で健康チェックと保健指導に従事



松阪市「いおうじ応急クリニック」開院前、内装工事のチェック

だき、やりがいを感じて運営をしています。数字としても結果が出てきていて、年度によりばらつきはありますが、当院が開業してから平均5%ほど救急車の出動件数減少効果があるようです。

クリニックにおける自身の役割

事務方として、資金調達や労務、経理、採用やPR活動など、事業運営に関わることは何でもやっています。一方、看護師の資格を活かすタイミングとして、「現場運営のトラブルシューター」を行うこともあります。大体は部署間の連携トラブルなのですが、自分も現場と一緒に入り、ストレスを感じやすい連携場所を特定し、一緒にルールを決めたりしています。自分の強みは「多角的な目線で現場を見られること」にあるのではないかと考えているので、「看護師(医療者)としての目線」「事務スタッフとしての目線」「経営者としての目線」から、現場が納得しやすい環境やルールを考え、提案・実行しています。

ビジネスで得た、看護に活かせるスキル

目新しい話ではありませんが、「目標を具体的に立てること」は癖づけされたと思います。そのあたりは看護領域にも活かせる部分があると思います。

例えば「インシデントを減らそう!」となった時に、「インシデント減らすぞー!」と毎日唱えても減るわけではありません。「今どのくらいインシデントが起きているのか」「どんな内容なのか」という状況把握から入ると思います。ここで重要なのは、「大体このくらい」ではなく、「どんなインシデントが何個」というふうにきちんと数字で出すことです。一つひとつあいまいにすると全体像がぼやけます。状況を把握したら、「どのタイミングでど

の内容を何個減らすのか」も具体的に決めます。

具体的な数字に落とすことができると、「現場改善が達成できているのか」「できていないのか」が客観的になりますし、みんなで達成を喜んだり、未達を悔しがったりすることもできます。

保健師としての視点

保健師は、立場にもよりますが、物事の状況を俯瞰して見ることが多いと思います。最初は個々の事象でも、同じ事象が複数起こってきたとき、それは何かに起因しているはず。データを集め、その“重なり”がどこにあるのか全体を俯瞰しながら分析し探っていく作業は、むしろ経営にも通じる視点です。

今後の展望

私は仕事をする時に意識していることが2つあります。1つ目は「人の役に立てていると自分自身が実感しているか」。2つ目は「その仕事をしていてワクワクしているか」です。仕事に悩んでいるときはこの2つに立ち返ると、私の場合、すっきり考えられます。もちろんチャレンジするときも同じで、今後もこの2つを感じることができる仕事をしたいと思っています。もし、そんな仕事を一緒にできる方と出会ったら、たとえ自分にとって未知なる領域でも挑戦したいと思っています。



PROFILE 志賀 大 (しが・まさる)

昭和大学保健医療学部看護学科在学中の2010年に、ケアプロ株式会社の創業メンバーとして参画。2015年に株式会社みんなの健康を創業し、多数の医療機関や企業にハンズオンで経営・運営支援をしている。看護師・保健師。

● 現在の主な支援先と業務内容

いおうじ応急クリニック：事務長業務
医療法人社団花橘会：事務長業務
株式会社長澤薬品：取締役として経営支援

開業等で志賀氏にご質問のある方は、こちらまで ▶

Nurse Partners ☒ : info@nurse-partners.com
☎ : 0800-100-5255